

本日こじに医療法人「生会院内報「じんせい」100号紙を、無事発刊することが出来ました。昭和61年6月25日、細木高行前理事長の突然の死去によつて、医療法人「生会院内報」細木病院に帰つてきました私には、殆どの職員の顔と名前が一致せず苦労しました。私がこんな状態ならば、新しく就職した職員はどんな気持ちだろうかと考えますと、そ

うだ皆の「ミユニケーション」を計り、名前とか性格とかが少しでも早くお互いに判り、理解を深める為には……と考えまし



仁生会理事長 細木 秀美

100号を記念して

仁生会理事長 細木 秀美



昭和62年1月に発行された「じんせい」第1号の1面

発行部数も創刊時の1200部から現在の2000部となり、当初は病院職員と看護学校職員のみに配布

地域医療に貢献

医局・北川隆夫

平成3年までは先生方に随時お願いして、医療情報にいましたが、次第に関連企業の皆様や外来と入院中の患者の皆様に可愛がられて、現在に至っています。

最初はなかなか記事が集まらず、編集長が毎月の編集に四苦八苦した頃から考りますと、雲泥の差で有り余るほどの記事が知らないうちに集まり、しかも

当番制として、医局の先生方に細木病院と三愛病院で2:1の割合でお願いし、現在に至っています。「じんせい」が

せられました。
これからも頑張る

栄養管理課・渋谷由佳

「じんせい」がついに100号

を迎えました。100号で

ことは?と計算してみ

ます。8年と4ヶ月……。病院

の出来事がいっぱい詰まつ

る「じんせい」は、そのま

ま歴史なんだなあ、と改めて

感心している。66号から編集

委員としてお手伝いを始め

て、記念すべき100号に載つ

ちゃうなんて、ラッキー♡

編集委員のみなさま、100号が

頑張りましょう。

100号から10号までの「じんせい」の変化は、おそらくそれまでの2倍、3倍の速さと推測される。在宅介護支援センターのスター、MRIの導入など。三愛病院は本館の増改築など変化は枚挙にいとまがない。といふことは、「じんせい」にとって記事の心配が少なくてすみ、うれしい5年の間であった。これらの10号までの時間は、もつともっと忙しくなると予想される。

うれしい5年間
理学療法室・沖広剛



伝統ある院内報に
81病棟・水田昌明

マヌスティアの一角である「じんせい」が、花の4月号で10号になるとみながながダメタイ! パブルが崩壊した頃、編集委員になり、冷夏、猛暑

そして大震災と続いた。伝統ある「じんせい」といわれる

ような院内報にしたいものだ。

さらなる飛躍へ

三愛病院・竹垣康幸

私は土佐看護専門学校の教員の仕事のかたわら、この1年間編集委員を務めてきました。その間、「じんせい」には、病院に関わつて下さった多くの方々の手口とさせられるこぼれ話の数々が掲載され、より深い親近感を感じ、と謝意を表します。

いつも愛読者の心で

三愛病院・岡村美佳

私が就職した当時、膨大な数の仁生会職員の顔と名前を覚えるため、「じんせい」には、大変助けられたことを思い出します。あの頃のように改めて1号から目を通してみると、仁生会職員の生き

生きとした姿がよみがえるよう、あたたかい気持ちになりました。これからも初心に

帰つて焦らず、おこらず、また仁生会の職員として誇りと自信を持ちながら、「じんせい」の愛読者の一人でもあります。

“病院のこころ”伝え 歴史を刻む

「じんせい」100号記念座談会

座談会出席者

(発言順・敬称略)

前高知新聞社会福祉事業団理事長
松岡 正一
高知銀行常務取締役
岡内 紀雄
前細木病院総婦長
山下ムツ子
細木病院副看護部長
浜口 圭子
細木病院栄養管理課長
松井 慶子
三愛病院放射線科技師長
楠瀬 正哲
仁生会理事長・細木病院院長
細木 秀美
司会 細木病院副院長
浜田 義文

まず細木秀美理事長(細木病院院長)から伽号を迎えて、さらに「じんせい」を可愛がっていただけるようになります。今回、100号という節目を迎えたのを機会に、皆様方のご意見やご批判をいただきまして、さらに「じんせい」を可愛がっていただけます。

業団の理事長をされていまし
た松岡正一さんと相談申し
上げたところ、周藤春男さん

ことが大きな収穫になつたと
思っています。

司会 次は、「じんせい」を読まれて、その印象をお伺い



松岡
さん
理事長
細木

月を追つて実をむすんでいる
松岡 もう伽号ですか。早いものですね。この8年間、

見られた「じんせい」を見つけていたときだと思います。
大人の広報紙に

松岡 もう伽号ですか。早いものです。この8年間、

見られた「じんせい」を見つけていたときだと思います。
大人の広報紙に

まだ病院の発展の足跡や病

昭和62年1月に発行した院内報「じんせい」が今年4月で100号を迎えました。そこで伽号を記念して、院内外の愛読者に集まつていただいたて座談会を開き、「じんせい」の印象、心に残つた記事、これから望むことなどを語つもらいました。

司会(浜田) 院内報は昭和

54年4月に、前仁生会理事長

の細木高行先生が、職員の相

互理解と医療人としての成長

を願つて始まりました。当時は「飛鷹」として年2回発行

されていました。「飛鷹」の題

字は多田副院長の揮毫です。

62年1月に「じんせい」と名

前を変え、毎月1回発行して

います。今回、100号という節

目に迎えたのを機会に、皆様

にと、この座談会を開いたわ

けです。

細木 「じんせい」を作る

きっかけとなりましたのは、

「100号を記念して」のあいさ

(特集面最初のページ)で

も述べていますが、目的は職

員同士の「ミュニケーション」

を図り、仲良くなる狙いでし

た。

当時、高知新聞社会福祉事

(初代編集長)を紹介してい
ただきました。

発足当初はなじみが薄いた
めか、記事も少なくて、編集

長は大変なご苦労をされたこ
とと思います。それでもなん

とか継続し、職員間のコミュニケーションを図るだけでな
く、次第に広く一般の方々や

銀行、製薬会社などにも医療
情報を探してまいりました。

情報提供以外にも、昭和62
年から8年間にわたつて発行
することによって、病院の歴
史が保存され、刻まれてきた

ように思います。まず記事が
充実してきましたね。そして
見出しのとり方も大変工夫さ
れていて分かりやすくなりま
した。年齢層を問わず興味を
もつて読まれるような「じん
せい」に育つきました。

特に感心しているのは「医
療相談」のワード化です。私
たちのような年齢を重ねた者
は、病気に対する敏感度、関心が深
く、タイミングな企画だと思
います。内容も非常によ
く、読む者にとってはうれしいで
すね。最近、新聞、テレビも

いただきありがとうございます。
でもある高知銀行の岡内紀雄
常務取締役さんにお願いしま
す。岡内さんはお仕事柄、各
方面の方とお付き合いがあ
り、広い視野をもつておられ
ますし、また銀行にはそれぞ
れ行内誌もあると聞いてあり
ます。そういう視野からの

ご発言をお願いします。

院のカラーなども分かるよう
に編集されており、完成され
た広報紙といえるでしよう。
司会 うれしいコメントを

創刊時は大変な苦労「医療相談」は好企画

岡内
理人

岡内 私たちも「あけぼの」
というタイトルの行内報を夕
ブロイド版4ページ建てで毎
月発行しています。内容は、
最近の主なできごとや行事、
人事、随筆、クラブ活動など
です。この行内報は、職員が
情報を共有することで、一体感
を深めることも、運命共同体としてのパワーの原動力に
もなっていると思います。長
い歴史の記録としても大切な
ものだと思います。

こちらの「じんせい」は、
100号を迎えたわけですが、繼
続は力なり、ガビッタリとさ
ります。構成も優れていて、仁
生会の哲学・理念が背景にあ
り、大変読みやすく、しかも
温かさが伝わってくるのを感じ

ています。これは院長は
じめ職員の協力がなければで
きないと想います。

司会 山下さんには前総務長さんとして、また前〇〇会(仁生クラブ)の会長さんとしての立場で、ご感想をお願いいたします。

主人も心待ち

山下 私は今は病院から離



司会 山下さんには前総務長さんとして、また前〇〇会(仁生クラブ)の会長さんとしての立場で、ご感想をお願いいたします。

主人も心待ち

浜口 私事ですが、私が土佐准看護学院(現在・土佐看護専門学校)に就職しようとすると、ここにいらっしゃる山下総務長さんと院長に面接し



前理事長が、54年4月に発行した院内報「飛鷹」創刊号(左)



故細木高行理事長

「飛鷹」創刊あいさつ

細木高行
前理事長

院内報「飛鷹」発刊に際して挨拶申上げます。地域医療機関の一環として施設の充実を図るとともに、職員各位の研さんと一層の協力によ

り、信頼される病院になるよう邁進したいと存じます。本誌は病院と職員(家族を含む)との結び、相互理解と人間関係を深め、よりよい病院人としての成長に意義あるものと信じます。本誌が益々発展致すよう、多数の投稿をお願い

ます。このようにして、この院内報は細木病院の動きがよく分かる、理事長の考え方を分かり、理屈の利点があります。また職員間の「ミーティング」を図るというだけでなく、院外の方、特に患者さんにもよく読まれているようです。職員に向けてのみの発信ではなく、院外の人たちにも向けた紙面作りに変わっています。

しまった。記録する」との大切さ、偉大さを改めて認識しました。

司会 この中では一番若くアクトライブな行動派といわれましたが、ベテラン職員から見られた「じんせい」の流れのようなものを語っていただけたのと思います。

司会 浜口さんは副看護部長として看護婦の立場から、また長く土佐准看護学院の教務主任をしておられたので、自分が今まで経験したことを話してほ

う勤めていた頃の記憶は薄れています。しかし現在「じんせい」は医療関係の唯一の情報源で、主人も心待ちしているのか、私より先に読んでいます。病院が発展していく姿や院内の行事などがよく分かり、昔を鮮明に思い出すことができます。浜口さんは副看護部長として看護婦の立場から、また長く土佐准看護学院の教務主任をしておられたので、自分が今まで経験したことを話してほ

う勤めていた頃の記憶は薄れています。しかし現在「じんせい」は医療関係の唯一の情報源で、主人も心待ちしているのか、私より先に読んでいます。病院が発展していく姿や院内の行事などがよく分かり、昔を鮮明に思い出すことができます。浜口さんは副看護部長として看護婦の立場から、また長く土佐准看護学院の教務主任をしておられたので、自分が今まで経験したことを話してほ

う勤めていた頃の記憶は薄れています。しかし現在「じんせい」は医療関係の唯一の情報源で、主人も心待ちしているのか、私より先に読んでいます。病院が発展していく姿や院内の行事などがよく分かり、昔を鮮明に思い出す

で、当学院でぜひ勉強したいといって、入試を受けてくれた方もありました。

また病院には、「病院のこころ」を患者さんにどう伝えるかが大切なことです。「じんせい」を通して父兄に知りたいにはこのような病院の姿勢が盛り込まれてあります。大変

木病院にお世話になつていまます。毎日の仕事を先へと追つていると、忙しさを感じ

それから、職員の動向を見ても、随分多くの職員と食事を通じて関わってきたんだな

院外向けの紙面を

4月で、ちょうど「飛鷹」がスタートした年です。私は一度目の職場で、だから院内報は自分の第一の人生の歩みとともにあつたといえます。



「じんせい」の記事を読ん

だ学生の出身高校の先生方にいたり思っています。また説明によみがえつてきました。

司会 松井さんは栄養課長として勤続31年で、この間、病院の台所を必ずかつてこられましたが、ベテラン職員から見られた「じんせい」の流れのやうなものを語っていました。

今回、「じんせい」を1号から読みでいると、その時代が鮮明によみがえつてきました。

司会 松井さんは栄養課長として勤続31年で、この間、病院の台所を必ずかつてこられましたが、ベテラン職員から見られた「じんせい」の流れのやうなものを語っていました。

第8号(昭和62年8月号)の「職場めぐら」で、栄養課がとりあげられ、その中で適時適温給食を目指したい、とだけたの思います。

松井 私は昭和39年から細木病院にお世話になつていました。そのほか、栄養課は毎日の仕事を先へと追つていると、忙しさを感じ

なりました。その記事が第9号(平成7年1月号)に載りました。そのほか、栄養課関係の情報も度々載せていました。

それから、職員の動向を見ても、随分多くの職員と食事を通じて関わってきたんだな



座談会に出席された左から楠瀬さん、山下さん、松岡さん、岡内さん、松井さん、浜口さん、浜田さん、細木理事長の8人（細木病院管理棟会議室）

親しみが増す

もでき、これからも続けられるとうれしいと思います。さらに平成3年からは蒲原さんが「じんせい」に加わり、紙面に写真が多くなり、目から入る「コース」ということで、親しみが増してきました。

「じんせい」をめぐってみると、第1号には現院長に就任された時の「あいさつが載っていますので、「じんせい」は院長と一緒に歩んできたとも言えるのではないで

よいと思います。また紙面のカラーですが、見にくい色もあり、工夫が欲しいですね。

カレーですが、見にくい色も銘として「稽古（けいこ）」と司会ここで視点を変えます。1号からすでに保育のことが載っていました。100号までの歴史を感じます。

岡内 まず細木秀美理事長

「じんせい」では、各分野で「ツアーリーダーの方々の感性が新鮮に伝わってくるようで、私たち専門知識だけでなく、良心忘るべからずと相通するものとして、大変感銘を受けたことを記憶しています。

司会 私も理事長の「時事エッセー」は毎号欠かさず読んでいますが、文章はうまいと思います。細木さんいかが

言。これは横田編集長との共同発表のようなものです。まことに「じんせい」第1号には夜間保育のことが紹介されており、1号からすでに保育のことが載っていましたんだなあ、と

院外エッセーは貴重 『看護相談』作りたい 浜田さん

でしようか。

目をひくカラー

松岡 每年の新年号のカラー写真がすばらしいと思いました。とりわけ1面のカラーが目を引きました。また8面には医療スタッフの顔写真が載っていますが、こんなにたくさんスタッフがいるのかと思いました。

時々、特集とか号外とかを目しますが、やはり大きな出来事や、この件は職員らに詳しく伝えたらよいというような事柄などは特集とか、締切り時間に間に合わない場合、号外を出すようにすれば

あるだけに、共感するところが多いし、含蓄のある文章を毎号楽しみにしています。また今年の新年号で、理事長が書かれた年頭所感の中に、後藤田元官房長官が示した危機管理の五箇条が掲載されています。とりわけ1面のカラーが目を引きました。また8面には医療スタッフの顔写真が載っていますが、こんなにたくさんスタッフがいるのかと思いました。

それと「医療相談」は素人にも分かりやすく解説されており、私も成人病の段階に入ってきたので、健康管理のうえで大変役立たせています。

平成4年3月号の「院外エッセー」では各部署の仕事の内容やリーダーとスタッフの仕事に対する姿勢が

浜口 「時事エッセー」と「医療相談」はいつも注目して読んでいます。「うちの婦長さん」は、看護部にどうてはうれしい記事でした。スタッフから見た婦長像は、お世辞もありました

「うちの婦長さん」は、看護部にどうてはうれしい記事でした。スタッフから見た婦長像は、お世辞もありました。それでも私たち看護部でも勇気づけられ、仕事への意欲にもつながりました。

それから私たち看護部でも「医療相談」に匹敵するまではいかなくても、「看護相談」のようなものが作れて、原稿が出来るようになれば、と考えています。

「編集室」のファン

楠瀬 「編集室から」のファンです。編集スタッフが苦労している姿がよく分かります。特に最初の頃は記事が集まりづらい他の職員が書いてくれた「編集室」を書いている人がいました。

ところで私は平成2年2月に、国連ボランティア参加のため、一度退職してまたお世話になっているいわゆる出戻りなんですが、その時の「編集室から」に、退職していく際に際して当時の編集長から

感じられ、かつての連載物ですが、楽しみにして読んでいました。それから最近の「院外エッセー」では、各分野で「ツアーリーダーの方々の感性が新鮮に伝わてくるようで、私たち専門知識だけでなく、良心忘るべからずと相通するものとして、大変感銘を受けたことを記憶しています。

司会 私も理事長の「時事エッセー」は毎号欠かさず読んでいますが、文章はうまいと思います。細木さんいかが

前編集長に感銘

司会 私も「編集室から」はよく読んでいます。特に平成4年3月号に周藤前編集長が書かれたお別れ(退職)の文章には感銘をうけました。その中で「春も近づき編集室玄関にあるカリンの木が芽を吹き、小さいピンクの花をつけた。この花を見るのも今まで6回目、長いようで短い編集生活だった」「新しいスタッフにバーンタッチする『じんせい』が今後も充実発展を続け、やがてくる100号(平成7年4月)まで陰ながら見守つていきたいと思つてゐる」と書いてあります。「じんせい」を思つ心が私の胸をうちました。もうこの時に100号までの発展を祈つてくれていた人がいたのだということがわかり、感激しました。

さて、「じんせい」も年を積み重ね、年々充実していきましたが、さらに飛躍してもらうため、これから何を望むべきでしょうか。

今の姿勢維持を

松岡 院内報からは「病院のこころ」を伝えるという方針が伝わってきます。病院の方針も内容もよく分かります。非常にいいことですね。これからも、この姿勢を続けてほしいですね。

きれいな表紙を

山下 きれいな表紙が欲しいですね。新年号のようなカラー紙面が望ましいですね。

浜口 愛社精神と申します。自分の子どもや孫

は色に大きな意味があると思ふのですが、これルマークのことですが、これは色に大きな意味があると思ふのですが、できればこのシボルマークだけでも毎号カラーにしたらどうでしょうか。当行の行内報も普段は写真も含めて白黒ですが、特別なときはカラーを使い、シンボルマークだけは毎号カラーラーです。だいぶ印象が違いますね。

それと、この「じんせい」

岡内 実は「生会のシンボルマークのことで、これまでのつながらをもてる温かい病院になれば、患者さんも集まつてきたださるだろうと思ひます。その病院と地域の人たちをつなぐ役割を担つてゐるのが「じんせい」ではないでしょうか。これからも、病院の「こころ」が盛り込まれた「じんせい」が続いていくことを望みます。

情報提供の機関に

松井 私たちは、患者さん

がお田さんの勤いた病院で働かせてもらいたいという、心のつながりをもてる温かい病院になれば、患者さんも集まつてきたださるだろうと思ひます。その病院と地域の人たちをつなぐ役割を担つてゐるのが「じんせい」ではないでしょうか。これらも、お互いに各専門領域がますます連携を深めれば、より良い医療サービスが出来るのではないかと思います。

新たな患者さんを

としている患者さんもいます

また「じんせい」を中心待ちにして、いつでもお問い合わせしていただいだのですが、その中に「じんせい」の感想を聞かせていただきたいのですが、そこでは、一面だけではなく、他面も使って、写真も多くして、例えば健康展のようなものがあれば、一面だけでなく、他面も読みやすくして、字をもう少し大きくして、カラ一面を増やしてほしいという注文があります。また大きなイベント、例えば健康展のようなものがありますが、一面だけではなく、他面も使って、写真も多くして、字をもう少し大きくして、カラ一面を増やしてほしいという意見もあります。



司会 いろんな有益なご意見をいただきました。これらのご意見が欲しくて、提言が実現されていくことを期待しております。

楠瀬 三愛病院でティケア

院を利用していただけるように、情報を提供して欲しいと思います。

写真を多くして

導入や新設された診療科、そして院内外に向けての各イベンツなど、「じんせい」を通して内容を理解する事がたくさ

けているわけです。日本人は外国人に比べて自己表現が下手だとよく言われますが、新聞の投書欄などでもたくさんの方が投稿できるコーナーを設けてみてはいかがでしょうか。

綴じ込み欲しい

司会 いろんな有益なご意見をいたしました。これらのご意見が欲しくて、提言が実現されていくことを期待しております。

患者さんの投稿欄を 楠瀬 岡内さん

シンボルマークカラーにしては、この投稿欄を運営するのに、病院と患者さんとをつなぐパイプの役割があるとするならば、時には患者さんの奇動きが十分見えていない事があります。新しい医療機器の動きが大変有意義な会でございました。私どもでは考

は職員間のコミュニケーションを深めるという目的と同時に、病院と患者さんとをつなぐパイプの役割があるとするならば、時には患者さんの奇動きが十分見えていない事があります。新しい医療機器の動きが十分見えていない事があります。新しい医療機器の動きが十分見えていない事があります。新しい医療機器の動きが十分見えていない事があります。

さすが、今後の一つの課題として念頭におきまして対処していく

いただけるより、マンネリ化しないようになしたいと思います。

今日の座談会に出されましたいろいろな意見を上手に纏り込んで、10号、20号、50号と発展していきたいと思つています。また職員のために、健康維持のためになるようなものを目指したいと考えます。

本日はどうもありがとうございました。

反映したい 理事長 反映したい まとめ

さすが、今後の一つの課題として念頭におきまして対処していく

いただけるより、マンネリ化しないようになしたいと思います。

今日の座談会に出されましたいろいろな意見を上手に纏り込んで、10号、20号、50号と発展していきたいと思つています。また職員のために、健康維持のためになるようなものを目指したいと考えます。

本日はどうもありがとうございました。

遂に「じんせい」も100号を迎えられる。そこで誠におめでとうございます。

ひと口に100号と言つても、毎月欠かさず続けることの困難さと、その価値の大きさを



中澤薬業社長
中澤 博

現在のタブロイド版に拡大され、文字も大きく、カラー写真も不斷に見事にワクワクされた院内報であり、その内容も実に多彩である。刀圭

木の読み物は、「じんせい」の役割は素晴らしいものがある、と常々感じている愛読者の一人である。

国・公立病院では考えられないほど、「ミユニティーペーパー」「じんせい」の役割は素晴らしいものがある、と常々感じている愛読者の一人である。

50号まではB5版、51号から現在のタブロイド版に拡大され、文字も大きく、カラー写真も不斷に見事にワクワクされた院内報であり、その内容も実に多彩である。刀圭



大伸会
大町

「じんせい」100号に寄せて

「細木ならではの企画「医療相談」」

次いでユーモラスなのが、細木院長の「時事エッセー」である。実際に文章が無い、エスプリあり、ユーモアあり、時に人情の機微に触れつつ、毎号欠かさぬ執筆は並のものではない。

このエッセーの文脈の中にこそ「病は医薬のみにて治療せす」の願いが込められているように思われる。100号を記念してこのエッセー集を上梓されることは如何、楽しみにしている人は私一人ではない。

安心してかかる病院に



(元細木病院医師)
県立病院長
高坂 要一郎

「じんせい」百号発刊おめでとうございます。

最近「患者さんにとって信

頼のできる良い病院とは」と、考へさせられる機会も多いのですが、まず心に浮かぶことは意外と単純で、自分の家族が病気になつた時、安心して診てもらえる病院であるか? というようなことです。その視点からすると、細木病院に

は、患者さんから「あの先生に診てもらつて安心」と思われる先生方が沢山あられ、私も自身も参考になることが随分ありました。更に、病院における様々な職種のスタッフの資質、チームとしての連携の良さ、その結果としてのきめ細かなサービスも、細木病院の特徴だと思います。

細木病院は今なお枝葉を伸ばしつつある大樹のように見えます。

それらの基盤として、職員が自分の病院に帰属感と誇りを持つ、という意識の根を伸ばせる」ととも、とても大切なことです。

変わらぬ理事長の親切に感激



木病院務長
細元 清

今日2月20日も朝から大粒の雪が舞つていて、昨日は暴風雪の為、当地(女満別)空港発着の全便が欠航した。滅多にないことです。根室では瞬間最大風速26mを記録と報道された。義弟達がシヨベル

カーデ除雪して呉れたが、車の入らない所は小山の様にな

て来ないかと、ご親切な電話を頂き感謝しましたが、生憎かうが草稿が浮かばない。

昨秋、理事長先生から研修旅行で、札幌方面に行くから出でて、札幌方面に行くから出でて来ないかと、ご親切な電話を頂きましたが、生憎かうが草稿が浮かばない。

昨秋、理事長先生から研修旅行で、札幌方面に行くから出でて来ないかと、ご親切な電話を頂きましたが、生憎かうが草稿が浮かばない。

かうが草稿が浮かばない。

キ)と、その数により、またその動物の種類により使い分けをしてはならない日本語、日頃あまり考えたこともないほど、「ミユニティーペーパー」「じんせい」の役割は素晴らしいものがある、と常々感じている愛読者の一人である。

50号まではB5版、51号から現在のタブロイド版に拡大され、文字も大きく、カラー写真も不斷に見事にワクワクされた院内報であり、その内容も実に多彩である。刀圭

木の読み物は、「じんせい」の役割は素晴らしいものがある、と常々感じている愛読者の一人である。

次いでユーモラスなのが、細木院長の「時事エッセー」である。実際に文章が無い、エス

プリあり、ユーモアあり、時に人情の機微に触れつつ、毎号欠かさぬ執筆は並のものではない。

このエッセーの文脈の中にこそ「病は医薬のみにて治療せす」の願いが込められているように思われる。100号を記念してこのエッセー集を上梓されることは如何、楽しみにしている人は私一人ではない。

は、患者さんから「あの先生に診てもらつて安心」と思われる先生方が沢山あられ、私も自身も参考になることが随分ありました。更に、病院における様々な職種のスタッフの資質、チームとしての連携の良さ、その結果としてのきめ細かなサービスも、細木病院の特徴だと思います。

細木病院は今なお枝葉を伸ばしつつある大樹のように見えます。

院内紙のつまみで簡単に考えて寄稿させて貰いた私の貴稿について、多くの思いがけない人々から反響があり、恐縮して戦(あのの)きました

が、今や「じんせい」は院内で判りやすい解説は、患者のみならず一般の健康人間にこそ一読の価値ありと推奨します。

キ)と、その数により、またその動物の種類により使い分けをしてはならない日本語、日頃あまり考えたこともないほど、「ミユニティーペーパー」「じんせい」の役割は素晴らしいものがある、と常々感じている愛読者の一人である。

50号まではB5版、51号から現在のタブロイド版に拡大され、文字も大きく、カラー写真も不斷に見事にワクワクされた院内報であり、その内容も実に多彩である。刀圭

木の読み物は、「じんせい」の役割は素晴らしいものがある、と常々感じている愛読者の一人である。

次いでユーモラスなのが、細木院長の「時事エッセー」である。実際に文章が無い、エス

プリあり、ユーモアあり、時に人情の機微に触れつつ、毎号欠かさぬ執筆は並のものではない。

このエッセーの文脈の中にこそ「病は医薬のみにて治療せす」の願いが込められているように思われる。100号を記念してこのエッセー集を上梓されることは如何、楽しみにしている人は私一人ではない。

は、患者さんから「あの先生に診てもらつて安心」と思われる先生方が沢山あられ、私も自身も参考になることが随分ありました。更に、病院における様々な職種のスタッフの資質、チームとしての連携の良さ、その結果としてのきめ細かなサービスも、細木病院の特徴だと思います。

キ)と、その数により、またその動物の種類により使い分けをしてはならない日本語、日頃あまり考えたこともないほど、「ミユニティーペーパー」「じんせい」の役割は素晴らしいものがある、と常々感じている愛読者の一人である。

50号まではB5版、51号から現在のタブロイド版に拡大され、文字も大きく、カラー写真も不斷に見事にワクワクされた院内報であり、その内容も実に多彩である。刀圭

木の読み物は、「じんせい」の役割は素晴らしいものがある、と常々感じている愛読者の一人である。

次いでユーモラスなのが、細木院長の「時事エッセー」である。実際に文章が無い、エス

プリあり、ユーモアあり、時に人情の機微に触れつつ、毎号欠かさぬ執筆は並のものではない。

このエッセーの文脈の中にこそ「病は医薬のみにて治療せす」の願いが込められているように思われる。100号を記念してこのエッセー集を上梓されることは如何、楽しみにしている人は私一人ではない。



い 長
一せ 集 春男
じ 前 編 藤
か 創刊第一人

今から四、五年前でしよう
から、それで何気なく見過ご
して、いた題字「じんせい」の
4文字に、それそれ特徴があ
り、書いた人の人となり、人
生が表現されているのに気づ
いたのは、創刊50号の徳弘氏
(人生会顧問弁護士)の寄稿
文からだつたと思います。以
後、題字も興味の対象となり
ました。文字を通して、書かれた方
の人が想像するのが、楽し
みの一つとなりました。

理事長先生の時事エッセイ
をはじめ、病院の出来事、
二コーエイスの紹介、医療
相談等、内容が豊富で読みこ
なしがあり、同時に人生会の
歩もうとしている方向も同わ
れ、毎月楽しみにしています。
また、病棟行事の際、「じん
せい」の記者の方の姿がある
のと、ないのとでは、スタッ
フの張り切り様が違う様に思
います。「じんせい」は、距離
が、はや10年とのこと、時の
流れの早さを感じてしまいま
す。(職員の中でも「飛鷹」を
ご覧を想像するのが、楽し
みの一つとなりました。

「じんせい」創刊100号あめ
でどうぞります。
私は「白い窓」のコーナー
を、楽しみにしています。身
近な人が書いたものが多く、
その方を思い浮かべ意外に
思つたり、思わず笑つてしま
つたり、同じものを好きだと
知つてうれしかつたり。知

らない方の時は、少しその人
のことを知ったような気持ち
になります。「白い窓」は、付
き合いのある方、ない方達と
の、紙面を通してのそれそれ
の触れ合いの場という感じを
うけます。
今後の希望を少し言わせて
もらえるなら、楽しい「コー
ナー」が欲しいと思います。
例えば院内の「こぼれ話」一般
の人からの投稿等...。ほつと
一息つけるようなものを期待
します。
これからも、ますますのご
発展をお祈り致します。

「じんせい」で励まされることも
細木病院に就職した私は
が、100号の間に薬剤科の「コー
ス」も何度も登場しました。場
所も変わり、機械も内容もど
んどん新しく良くなっています。
細木病院より小さな三愛病
院婦愛科美佐代

細木病院に就職した私は
が、100号の間に薬剤科の「コー
ス」も何度も登場しました。場
所も変わり、機械も内容もど
んどん新しく良くなっています。
細木病院より小さな三愛病
院婦愛科美佐代

「じんせい」で励まされることも
細木病院に就職した私は
が、100号の間に薬剤科の「コー
ス」も何度も登場しました。場
所も変わり、機械も内容もど
んどん新しく良くなっています。
細木病院より小さな三愛病
院婦愛科美佐代

この仰号は単に節目の特集

題字揮毫者の人となりを想像

訪問看護ステーション高知
松原 紀子

の張り切り様が違う様に思
います。「じんせい」は、距離
が、はや10年のこと、時の
流れの早さを感じてしまいま
す。(職員の中でも「飛鷹」を
ご覧を想像するのが、楽し
みの一つとなりました。

的に離れている細木病院、三
愛病院を一つにする糸だと感
じています。今後も楽しい紙
面作りをお願い致します。

視野の狭い私に大切な情報源

でどうぞります。

私が細木病院に就職した頃
は、「飛鷹」という院内誌が発
刊されていました。それを発
展的に衣替えした「じんせい」
が、はや10年のこと、時の
流れの早さを感じてしまいま
す。(職員の中でも「飛鷹」を
ご覧を想像するのが、楽し
みの一つとなりました。

知らない人も多いのではない
でしょうか。愛病院を一つにする糸だと感
じています。今後も楽しい紙
面作りをお願い致します。

これからも、いろいろな人(医
療従事者にかかわらず)の声
を、楽しく時には厳しく伝え
て頂きたいと思います。

「じんせい」のますますの
発展をお祈り致しますとともに
、編集の方々の苦労に感謝
致します。

この仰号は単に節目の特集

号ではなく、「人生会大躍進の
一端を担う再出発の「じんせい
」」であつてほしいと願つ
ります。

「じんせい」創刊100号あめ
院内こぼれ話や一般の投稿も
細木病院主任美紀
13病棟中山

土佐看護専門学校専任教員竹沢睦子

「じんせい」創刊100号あめ
でどうぞります。
私は「白い窓」のコーナー
を、楽しみにしています。身
近な人が書いたものが多く、
その方を思い浮かべ意外に
思つたり、思わず笑つてしま
つたり、同じものを好きだと
知つてうれしかつたり。知

「じんせい」創刊100号あめ
院婦愛科美佐代
細木病院主任美紀
薬剤師今橋亞紀子

「じんせい」で励まされることも
細木病院に就職した私は
が、100号の間に薬剤科の「コー
ス」も何度も登場しました。場
所も変わり、機械も内容もど
んどん新しく良くなっています。
細木病院より小さな三愛病
院婦愛科美佐代

「じんせい」で励まされることも
細木病院に就職した私は
が、100号の間に薬剤科の「コー
ス」も何度も登場しました。場
所も変わり、機械も内容もど
んどん新しく良くなっています。
細木病院より小さな三愛病
院婦愛科美佐代

この仰号は単に節目の特集

号ではなく、「人生会大躍進の
一端を担う再出発の「じんせい
」」であつてほしいと願つ
ります。

「じんせい」で励まされることも
細木病院に就職した私は
が、100号の間に薬剤科の「コー
ス」も何度も登場しました。場
所も変わり、機械も内容もど
んどん新しく良くなっています。
細木病院より小さな三愛病
院婦愛科美佐代

「じんせい」で励まされることも
細木病院に就職した私は
が、100号の間に薬剤科の「コー
ス」も何度も登場しました。場
所も変わり、機械も内容もど
んどん新しく良くなっています。
細木病院より小さな三愛病
院婦愛科美佐代

この仰号は単に節目の特集

「じんせい」の題字揮毫者は、100号で
22人を数えました。1号から99号までの
題字を再録してみました。

歴代の「じんせい」題字

細木病院副院長 多田 一義



(43号～48号)

細木病院名譽副院長 芦原 作治



(37号～42号)

前三愛病院総婦長 弘瀬 嘉



(30号～36号)

前細木病院事務長 山下 ムツ子



(24号～29号)

元細木病院事務長 細木 清



(19号～23号)

細木病院名譽副院長 青山 信彦



(1号～12号)

前仁生会理事 故細木 美智子



(1号～54号)

細木病院副院長 浜 聰

(49号～54号)

前細木病院21病棟婦長 明神

美代子

じんせい



(71号～72号)

前細木病院事務部長 森 隆



(69号～70号)

元細木病院精神神経科長 安藤 英之輔(67号～68号)



(63号～66号)

細木病院副院長 岡部 健一郎



(59号～62号)

三愛病院事務長 浜田 育哉



(55号～58号)

元細木病院13病棟婦長 田村 時子



(85号～87号)

細木病院副院長 浜田 聰



(49号～54号)

前土佐看護専門学校副校長 田所 和子(79号～84号)



(73号～78号)

じんせい

「じんせい」揮毫の皆さん

仁生会本部企画管理部長 岡林 昭雄(97号～99号)



細木病院放射線科部長 仁尾 裕



(94号～96号)

土佐看護専門学校副校長 山本 章子(91号～93号)



(88号～90号)

細木病院副看護部長 浜口 圭子



(85号～87号)

前細木病院検査技師長 浜田 武



(85号～87号)

じんせい



(73号～78号)

「じんせい」100号の足どり

※50号までは前回の特集号に掲載しましたので省略します。

- ◇平成3年3月=「じんせい」の文字を大きく、紙面も拡大した。「この人に聞く」欄新設。
- ◇3年7月=「じんせい 医療相談スタート。」
- ◇3年8月=「今、職場で」欄スタート。
- ◇3年12月=3年の10大ニュース、トップは岡部先生が大臣表彰。
- ◇4年1月=1面カラーは富士山の写真。8面に仁生会幹部職員の写真。
- ◇4年4月=周藤編集長退職の特集号を組む。
- ◇4年7月=仁生会、週休2日制実施
- ◇4年8月=三愛病院の弘瀬総婦長の退職。特集号を組む。
- ◇4年11月=三愛病院に在宅介護支援センターいつくが発足。
- ◇4年12月=4年の10大ニュース、週休2日制実施がトップ。
- ◇5年1月=1面はマナツルのカラー写真。5~6面で土佐看護専門学校開校の号外。新企画「頑張ってます」欄スタート。
- ◇5年4月=土佐看護専門学校開校で記念式典と第1回入学式。細木病院に成人病健診センター設置。
- ◇5年12月=5年の10大ニュース1位は土佐看護専門学校開校。
- ◇6年1月=細木病院にタワー・パーキング完成。「続・うちの婦長さん」スタート。
- ◇6年4月=細木病院に在宅介護支援センター城西設置。仁生会に訪問看護ステーション高知発足。
- ◇細木病院に循環器科新設。
- ◇6年7月=細木病院本館病棟が特3類看護に。
- ◇6年9月=仁生会が老人保健施設「あうん高知」新設へ起工式。
- ◇6年10月=細木病院が泌尿器科を新設。
- ◇6年11月=仁生会が訪問看護ステーション高知西を増設。
- ◇6年12月=6年の10大ニュース。細木病院にMR1、CT導入がトップ。
- ◇7年1月=1面のカラーの写真は沖縄県のさんご礁の海岸。
- ◇7年2月=細木病院の玄関と待合室が装いを一新。細木病院が骨塩量測定装置導入。細木病院が県下のトップを切つて病児保育所開設。
- ◇7年4月=「じんせい」100号に到達。



細木・三愛両病院の薬局内の環境浄化と健康保持のため導入された「集じん装置付調剤台」
(平成3年8月)



競技会が同学院で行われた
(平成3年6月)



細木病院が看護週間に多彩な行事。「一日看護婦さん」で患者さんの足を洗う女子高生
(平成4年5月)



三愛病院恒例の健康展。初のバザーに人気
(平成5年10月)



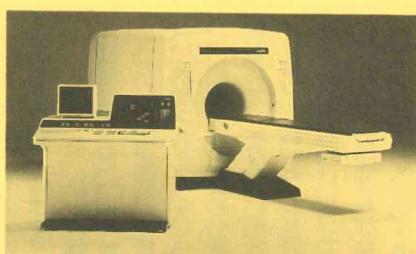
細木病院にタワー・パーキング完成。
駐車場不足と混雑が緩和された
(平成6年1月)



細木病院に導入された患者さん入浴用のシャワーベッド
(平成5年5月)



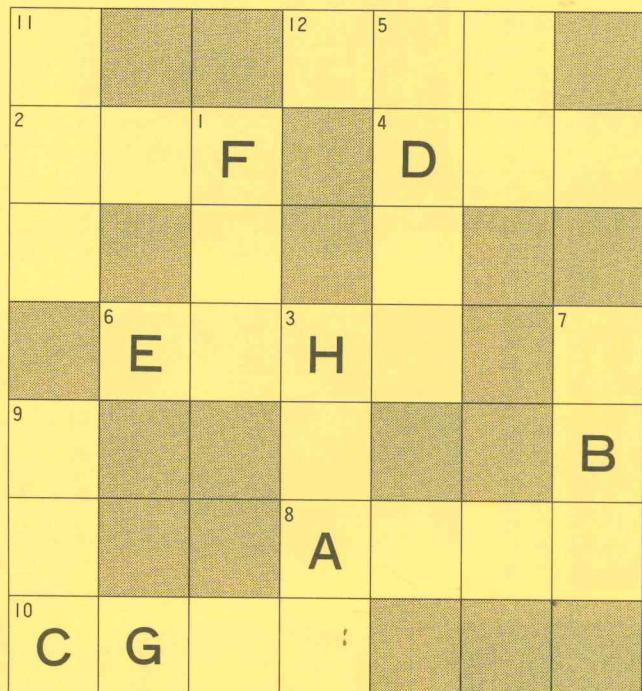
土佐准看護学院30周年と土佐看護専門学校開校を記念した式典が城西館で盛大に行われた
(平成5年4月)



細木病院に導入されたMRI
(平成6年12月)



仁生会OB組織「仁生クラブ」の総会
(平成6年9月)



「じんせい」100号記念の一環として、7×7＝49マスのクロスワードパズルを企画しました。出題者は「生会本部企画管理部の浜口一盛さんです。皆さん大いにリフレッシュしてマス目を埋めてください。正解者には景品を進呈します。



さあ、レッツ・トライ!

答え(A B C D E F G Hの順番に文字を並べること)

A	B	C	D	E	F	G	H
---	---	---	---	---	---	---	---

- (1) 高知では今でもカラフルな広告をペイントした○○電車が走っています
 (2) 三愛病院併設、平成7年8月開設に向かつて現在建築中の「あうん高知」は○○○○保健施設です
 (3) 土佐市宇佐にある仁生会福利厚生施設の名前は○○○○莊です
 (4) ディズニーの有名な空飛ぶ象のキャラクターの名前は○○○です
 (5) 中国にあと2年で返還される香港が、イギリスに領有されるきっかけとなつたのは第一次○○○戦争です

- (6) 高知空港は○○○○ジエット機が発着出来るよう滑走路の拡張を計画しています
 (7) 細木病院には県の委託を受けた○○○○健診センターが設置されています
 (8) 「じんせい」第1号の細木病院保育所の記事の見出しは「助かる○○○保育」です

縦の力ぎ

横の力ぎ

*空白のマス目を埋め終わったら、AからHの8文字を順番に書き込んで下さい。それが答えです。

*締め切りは4月28日(金)必着。

4月28日必着

さつても結構です。
さつても結構です。

応募方法

*空白のマス目を埋め終わったら、AからHの8文字を順番に書き込んで下さい。それが答えです。

住所、氏名を明記のうえ、〒44高知市大膳町37、細木病院広報課まで。直接持参して下さい。さつても結構であります。

*正解者20人に景品を進呈します。

正解者の発表は景品発送をもつてかえさせて頂きます。正解者多数の場合は抽選させて頂きます。

*あて先は、官製はがきに記入して下さい。8年と数カ月で到達しましたが、私も途中から編集作業に加わらせていただきました。早いものだなあ、もう100号か、という感慨をもつています。(蒲原) 100号を迎えた「じんせい」についての座談会や寄稿では、病院内外の方々から、温かい励ましやお褒めの言葉を頂戴して、面はゆい感しました。これもひとえに、理事長の強力なバックアップと、原稿を依頼すれば業務多忙にも関わらず、快くお引き受け下さる医局の先生はじめ、「生会ケループの職員、それに院外ワッセー執筆の皆様方のご協力の賜物と感謝しています。 伽号は、単に節目のあめたい記念号ではなく、「生会発展の一助を担う再スタート」と自覚していますので、引き続いて「じんせい」を可愛がつて下さるよう、よろしくお願ひ致します。(横田)